



鈴木バイオリンフリー Aコース



ふるさとガイドおおぶ



大倉公園NO1



▲茅葺門

大倉公園は、面積 1.7ha の日本の四季を優雅に楽しめる端正な日本庭園風の公園である。

明治 44 年 (1911) 輸出陶器「森村組」重役の大倉孫兵衛が陶器工場を建設しようと、御料林の払い下げを受け、現在の「大倉公園」及び「桃山公園」あたり一帯の土地を購入した。しかし工場は建設されず、孫兵衛の長男、大倉和親が大正 8 年 (1919) この地に「別荘」を建て、「大倉別荘」となり現在の「大倉公園」となった。

昭和 2 年 (1927) 夏の頃、大倉別荘に賀陽宮恒憲王 (かやのみや つねのりおう) が 2～3 ヶ月逗留され、名古屋騎兵 第三連隊に通っておられた。

開園時間

1月～2月 8:00～16:15

3月～4月 8:00～17:00

5月～8月 8:00～18:00

9月～10月 8:00～17:00

11月～12月 8:00～16:15

主なイベント

盆梅展 (2月) つつじまつり (4月下旬)

大倉公園NO2



▲休憩棟



▲ひょうたん池

■茅葺門（大正 10 年頃建築、昭和 59 年移築）

公園のシンボル茅葺門は大正 10 年に建てられた門で、この門をくぐると目の前には見事な日本庭園があり、椿、桜、藤、つつじ、紫陽花、紅葉など四季折々の花が咲く。また、なりひら竹、なんじゃもんじゃ（ひとつばたご）などの珍しい植物もある。

■休憩棟（大正 10 年頃建築、平成 20 年改修）

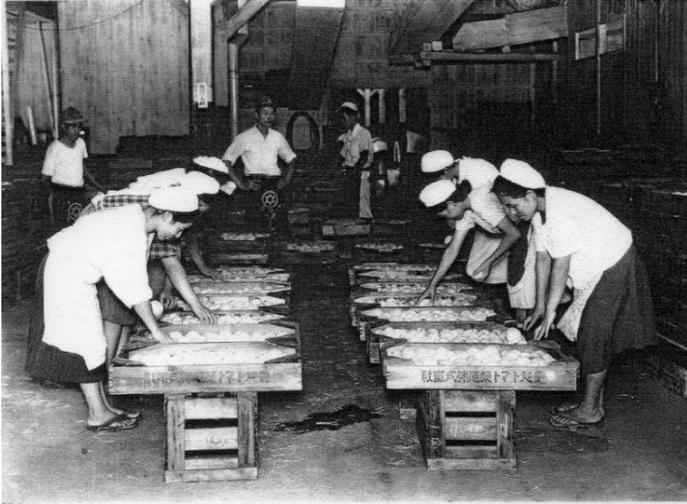
もと別荘の離れで、座敷を矩折れにして庭側に縁を廻らす。欄間など細部には数寄屋風意匠がみられる。

茅葺門・休憩棟は、国の「登録有形文化財」です。

■ひょうたん池

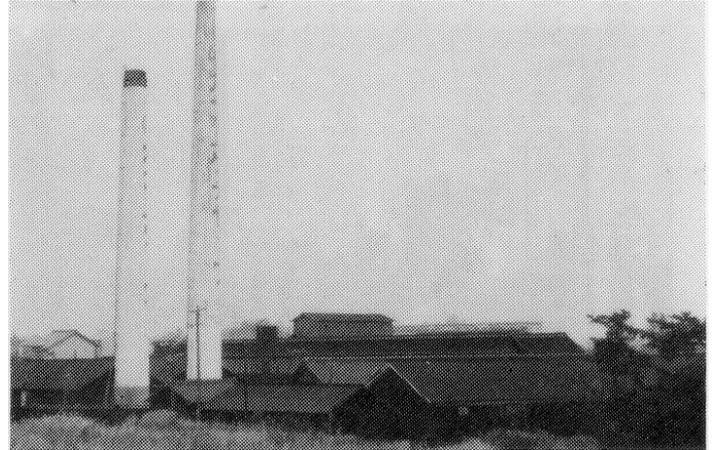
平成 21 年（2009）、友好都市「岩手県遠野市」から贈られた親子の河童像がある。

カゴメ大府工場跡地



愛知トマト大府工場
モモの選別作業 昭和26年

左上の写真は、
昭和45年まであった愛知トマト大府工場での、
大府特産・モモの選別作業。現在の桃山町を中
心に生産されていた。
男性の前掛けには「籠目」の商標が見える。



愛知トマト大府工場
トマトケチャップ等の生産 昭和27年

カゴメの沿革（1914年～1949年）
1914年（大正3年）愛知トマトソース製造合資会
社を設立
資本金3千円。
1923年（大正12年）愛知トマト製造（株）を設立
（大正12年）
資本金50万円



愛知トマト工場上野工場カゴメソースの出荷
トマトケチャップの出荷も同様

トマトは共和・吉田・長草が盛んで、昭和初期には、ほとんどの農家で栽培されていた。それら
の多くは、愛知トマト株式会社（カゴメ）との契約栽培であり、収入は安定していた。またトマトは
高収入であった。

さらに、青果用トマトの一般生食が激増、生産も著しく拡大し、需要も増大した。そして市域にお
ける加工トマト栽培面積も広がった。

昭和9年に桃山町（大字大府）に愛知トマト製造株式会社の大府工場が建設された。この当時、
大府は愛知トマト製造株式会社の買上量の2割にあたる約640トン（17万貫）を占める産地と
なった。大府工場ができて、翌10年8月に大府信用購買販売組合を設立することになり、トマト
耕作組合もこれに参加した。

14年10月に、トマト組合総会が大府町役場において開かれ、輸出缶詰用のトマトの集団大量
栽培について、協議され、生産拡大に向かっていった。

しかし、昭和7年に作付反別288反（約29ヘクタール）、生産量17万貫（約640トン）であった
トマトも、戦争末期の19年には4万8千貫（180トン）に減少した。

鈴木バイオリンNO1



鈴木バイオリン大府分工場

商号	鈴木バイオリン製造株式会社
所在地	〒474-0026 愛知県大府市桃山町二丁目23-1
TEL	(0562) 57-5245(代)
FAX	(0562) 57-5246
創業	1887年
会社設立	1930年6月
代表者取締役社長	鈴木 隆
事業内容	バイオリンを中心とする弦楽器の製造
系列会社	恵那楽器株式会社

鈴木バイオリン大府分工場

昭和10年（1935）、大府町名高山に国産ヴァイオリン製造で名高い「鈴木バイオリン製造株式会社」の大府分工場5,384坪が建設されました。この地が、欧州のヴァイオリン製造の一大拠点であったドイツのマルクノイキルヘンに似ていることで、この地を「日本のマルクノイキルヘン」にしようという創業者である鈴木政吉氏の思いがあったので、(将来展望の拠点工場と考えた)、斉韻研究所、自宅を建設して研究に没頭した。政吉の最後の仕事場としてその生涯をとじるまで住んでいました。

1944年（昭和19）第二次世界大戦の戦局悪化に伴い、大府工場は三菱重工に買収され航空機部品工場の総括本部となった。同年、政吉は横根町名高山にて肺炎により84歳で逝去した。政吉は永眠する三日前まで斉韻研究所にこもりヴァイオリン研究に没頭していたという。

現存する鈴木政吉氏製作のヴァイオリンとして、故高松宮宣仁親王所有のヴァイオリンがあります。

また、三男の鈴木鎮一氏は、スズキ・メソードの創始者としてヴァイオリンを通じた幼児教育の第一人者であり、鈴木政吉氏製作のヴァイオリンが、鈴木鎮一氏を介して天才物理学者のアインシュタイン氏に贈られ、そのお礼の手紙も残っております。

現在世界で活躍している名ヴァイオリニストである竹澤恭子さんの出身地である大府は、名器の故郷でもありました。

鈴木バイオリンNO2



同社と大府市の縁

同社は日本におけるバイオリン製造のヴァイオリンとして知られ、1887年(明治20年)に名古屋で創業。

大府市とは、世界恐慌後の1935年(昭和10年)に大府分工場を新設したというつながりがあります。しかし戦争の激化に伴い、1944年(昭和19年)に大府分工場は残念ながら閉鎖となりました。

現在、おおぶ文化交流の杜「allobu(アローブ)」に鈴木政吉氏の銅像が建立されています。

新たに本社工房が入るのは大府市の元レストランだった建物です。工房の主な設備を整えて生産を始めており、4月に移転作業は完了しました。新本社では政吉の三男の鈴木鎮一が創設した早期音楽教育「スズキ・メソッド」の教室を開講しています。

大府市が市民に広く文化芸術を振興するため、同社の本社工房移転を後押ししようと模索する中、当社「もも山 森の家」に白羽の矢が当たりました。欧風のメルヘン&ファンタジー感あふれる空間は同社経営陣も気に入り、大府市長たつての申し出をお受けすることとなりました。